西東京市市民協働推進センター
平成２４（2012）年度第１回運営委員会会議録（確定稿）

■**開催日時**：平成２４年４月１７日（火）　午後７時～９時
■**開催会場**：イングビル３階　第２会議室
■**出席委員**：有賀委員、有馬委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、坂口委員、高橋委員、田辺委員、徳永委員、豊永委員、中曽根委員、原委員、宮﨑委員、吉田委員
＜以上１４名、五十音順＞
■**事　務　局**：西口センター長、丸木地域福祉課長、篠原主事、中澤主事

〇社会福祉協議会・望月事務局長あいさつ
〇運営委員の委嘱（新委員の高橋氏に委嘱状を手渡す）

１．報　告　事　項

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

事務局：３月５日に行われた会計講座については前回の運営委員会で報告したので割愛する。３月１６日のトークサロン「市民ファンドを考える」ではＮＰＯ法人市民社会創造ファンドの坂本憲治さんにお話いただき、参加者は９名。社会的課題の解決には、市民からの寄付を中心に市民活動を助成する市民ファンドがこれから必要であるという話があり、市民ファンドは一定の資金規模が集まることが必須なので市町村単位での寄付は集まり具合も懸念される中で市民ファンドを創設するには検討課題があるという指摘もあった。第三者意見については、第三回評価委員会を開き委員長の山崎富一さんがまとめたレポートを審議し、一部加筆修正のうえ確定し提出を受けた。ホームページのアクセス数は、開設以来この１年間月々の変化がある。新規登録団体として「原発なくそう西東京市民の会」がある。相談状況月次報告では３月の相談が３件、年間合計が２２件である。４月以降の相談記録の収集分析については、情報収集、問合せ、依頼などを含めて把握できるように分類基準を広くする予定である。このことにより市民のニーズがどのような傾向にあるのかを分析していきたい。

委員長：相談状況の月次報告について相談件数のカウントの仕方について、相談の実情に合わせて再集計を行うため次回以降から相談項目が新しいものとなるということか。

事務局：どのような分類基準とするのがふさわしいのかを検討している。問い合わせなのか情報収集か、ＮＰＯの相談かなど、２・３カ月様子を見てどのような分類がよいのかを検討していきたい。

委員長：ホームページのアクセス数については、この数字から何が読み取れるのか。

事務局：この数字をどう読んだらよいのか、分りかねている。

委　員：アクセス状況についてもっと詳しく分かるはずだが、どのページが一番人気か、人気のないところがどこか分かればテコ入れをするなどの対応ができると思う。

委員長：ホームページについても詳細に出してしまうと煩雑になってしまうのでそこまで細かいものは求めていないが、煩雑にならない程度で集計、アクセスの分析について検討するのが良いと思う。

事務局：行政に対する報告をどこまで細かく数字を伝えるかということもあり、現在は件数程度の報告をしているが、ご指摘ご意見については検討していきたい。

委員長：可能であればアクセス数の多い・少ないだけではなく、もう一つ工夫があるとよい。

委　員：アクセス数を報告する目的がはっきりしないとどうしたらよいのかが分からない。例えば、訪問者の中に会員・非会員の区分をし、非会員にアプローチして会員増につなげるなどできないか。

事務局：会員か非会員かを把握するのは端末などの関係で現実的には難しい。事務局としては、アクセス数の傾向がどのような状況にあるのか、急激な減少や相対的にアクセス数が増えているのかをおさえておくことが本来の狙いと考えている。いただいた意見を踏まえて工夫していきたい。

委員長：ホームページの開設から一年になるが、例えば〇月が多いなど時間の経過から見えることがあろう。今年度も総訪問者数をカウントすることが基本となると思うが、一方で別の要因が見えるということがあるならば委員会の中で報告を行い、ホームページの活用について総合的な視点からセンターの活用について検討することが重要である。

２．４月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

事務局：４月 23 日には「新年度事業説明と意見交換会」を開催する。本日現在の出席予定者は 13 名。センターも４年目に入り、３年間の実績を踏まえた新規事業としては、例えばＮＰＯへの支援事業があり、資金調達や広報活動の強化、会員増強などについてのセミナーであるが、その開催の仕方、進め方についてご意見を伺って業務運営に反映していきたい。

ゆめサロンは主に登録団体のメッセージ発信の場となるよう企画し、第１回は５月 10 日に「今年のアースディとは」というテーマで、豊永委員にお話しいただく。

委員長：今までのトークサロンが内容も刷新しゆめサロンとなり、これがオープニングとなる。

委　員：昨年のアースディは嵐のなかで大変な状況下で開催したが、今年は昨年の経験を活かしたい。

委員長：登録団体の方々には、４、５月のいずれのイベントにも参集いただきたい。

４月の「新年度事業説明と意見交換会」の具体的なイメージは。

事務局：平成 24 年度新規取り組み事業を中心に、資料を配布して説明し、第三者意見の評価などにも触れる。その後に、新規事業の運営の仕方などについて参加者からご意見をいただく。

委　員：登録団体の更新について、現在の進捗状況はどうか。

事務局：今年度の更新は、ホームページを立ち上げて団体情報をデータとして保持しているので、登録時と変更があった箇所のみを記入する方式とし、登録団体の作業負荷を軽減する。登録団体に対して、基本的にはメールで送信し現在依頼中である。

３．2012 年度西東京市市民協働推進センターの事業および予算について

事務局：予算総額は前回同様であるため、説明は割愛する。

本年度事業は、(1)相談・サービス提供事業から(7)その他（ガバナンス）まで、の柱を中心に実施する。事業・事務執行計画は、専門相談員による定期相談、機関紙発行、ホームページ・携帯サイトによる情報提供、人材バンクによる人材情報の提供、ＮＰＯのための支援事業、協働を考えるシンポジウム等を、月別のスケジュールに従って実施する。また、スタッフ情報交換会は、公民館をはじめ市民の中間支援の方との情報交換と共有化を図る。協働に関する情報収集は通年事業とする。まちづくり円卓会議にはいろいろな立場の方々から参加いただく。ＮＰＯ市民活動フェスティバルは、例年通りに２月に行う。行政職員と市民活動団体との懇談会は１月開催の予定で、ゆめサロンは隔月開催とする。

委員長：昨年度にご意見いただいたので、 細かい修正はないと思うがこの計画に添って行うことになる。

委　員：資料記載の並び順についてだが、同じ基準に合わせた方が分かりやすいのでは。

事務局：並び順は、ご指摘のようにする。

委　員：執行計画にある２月には大きな行事が３つあるので、実施時期の再検討が必要ではないか。

事務局: ご指摘のように再検討する。

委　員：新規の事業については、早めに企画案などを提示され運営委員会で意見交換を深めたい。

委員長：大きな行事が重なっている月があり日程を調整するなどの再検討が必要だが、基本的には資料６の予定で進める。

４・西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」事業に関する第三者意見について

事務局：外部評価委員会は３回開催し、第三者意見は山崎富一委員長にまとめていただいた。事務局が作成した内部評価のシートに基づき説明をして、４名の委員からいただいた様々なご意見をまとめたものである。＜事業評価＞では、①相談事業、②情報事業、③人材育成・研修事業、④地域連携促進事業、⑤施設の提供・その他の事業について、それぞれ評価コメントがあり、＜評価できる成果と実績＞では、認知度の向上、利用の促進、情報発信力の強化に取り組み、ホームページの開設、助成金情報の提供などでも実績があったという評価を得ている。＜これからの課題＞としては、第１期３年間は総花的でかなり無理して取り組んできた印象があり、第２期本格的活動の展開では、事業内容を見直してスクラップ＆ビルドを行うことが望ましいとの指摘があった。なお、この第三者意見は、ホームページに情報公開したいと考えている。

事務局：この第三者意見は、受託先の社会福祉協議会の理事会・評議員会に報告する。

委　員：事業を絞り込めとか、運営委員会はもっとしっかりすべきなど書いてあるが、それらに対してゆめこらぼスタッフが検討し反論するようなことはないのか。事務局としての今後の対応はどうするのか。

事務局：個人的には意見もあるが、外部からの見解として真摯に受けとめたい。

委　員：活用について、いつからどのようにするのか。その反映は２５年度以降になるのではないか。

委員長：この外部評価をどうとらえるか。
事務局：第三者意見は、３年前に社会福祉協議会が受託した際に約束した実施プログラムに含まれているもので、今回の評価にあたってはかなり丁寧な意見交換があり、また３回の委員会とは別途に山崎富一委員長とは個別に話し合いを数回持った。これからの課題として提案いただいた３つの重点事業に関しては、事務局が掲げている新規事業とほぼすり合うようなご意見だと認識している。新規事業についてはきめ細かく情報提供するなかでまとめていただいたので、ある意味ではエールをいただいたものと考えている。運営体制については、「市民協働推進センター設立に向けた提言書」のあるべき姿から考えると、改善の要はあるかと思う。
事務局：運営委員会における２４年度事業の組み立ての議論を踏まえながら、スタッフが外部評価委員会の委員の方々と意見交換などをして、これからの課題が抽出されたといえる。運営委員会についても在り方の否定ではなく、行政との関係をもっと密に持つようにということである。２４年度事業計画は既に固まっているので、この意見は２５年度から反映させていく。評価について、最初は外部の意見を随時もらうという計画だったが、そこまでやりきることが出来なかった。定期的な外部評価が、結果として３年間をまとめての評価となった。次回の第三者評価は前倒しをして取り組むこともある。
委　員：行政との関係を上手くやってほしいということならば納得する。第三者委員会で指摘された内容と行政側の考え方とが同じような目線ではない場合、そのあたりのことをできるだけ早く話し合う場をもってもらいたい。それが、行政とうまくやって欲しいという指摘されているような話に繋がれば良い。
委　員：この第三者意見は誰にあてたものか。
事務局：社会福祉協議会の会長宛である。
委員長：会長にあてたものであるが、運営委員会も一つの受けとめるべきご意見として今後に活かしたい。

２．審　議　事　項

１．２０１１年度第１２回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録について
委員長：２０１１年度第１２回運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とする。

２．西東京市市民協働推進センター運営委員会の次回傍聴について
事務局：次回の会議も今回と同様に傍聴は３人までとする。

３．協　議　事　項

１．　西東京市市民協働推進センター運営事業報告（案）について
○事務局説明
事務局：事業報告を社会福祉協議会と西東京市へ提出する。
委　員:参加者数など概要は分かるが、折角アンケートを収集しているので参加した人の反応や副次的な効果、当初予定していたものではないが実はこんな展開があったなどの職員のコメントというかたちで事業報告があると良い。思わぬ展開がおこることに協働のおもしろさがあり、そういうエピソードなどがあると読んでいて楽しい資料になる。
委員長：事業の波及効果などを載せることは可能か。
事務局：初年度の事業報告書にはアンケートの結果を少し掲載していた。
委　員：これは公開をしてはいないのか。
事務局：ホームページで公開している。
事務局：初年度の報告は市に提出するものと社会福祉協議会向けのものというかたちで２種類あったが、報告書を２種類作ることは現実的には作業負荷が大きいので社会福祉協議会のものに統合して１つの事業報告書として現在の形となった。
委　員：これは社会福祉協議会の全事業報告書の一部というか抜粋ということになるのか。その場合、書式や記載方法は社会福祉協議会の方式に合わせる必要があるのか。
事務局：今は特段決まりはないが、最終的にはそれに合わせていくことになろう。いただいた意見をどのように取り入れていくかである。皆さんの意見をできるだけ盛り込むかたちで、これから調整したい。
委　員：事業が並列的に記載されているが、カテゴリーに分けた方が良い。また、成果や参加者の声を載せるのが難しいようならば最初に総論、概要となる文章があると良い。

委　員：文字が並んでいるだけなのでゆめこらぼの活動が伝わりにくい。表記を変える、項目を増やすなどの工夫が必要である。

委　員：最後に第一期（３年間）の総括が欲しい。また、初年度から行っている企画の参加者の推移などを数値化や視覚化できると良い。行政との協働はどこにあったのか。それについての課題はこちら側から発信していくことはできないのか。

委　員：事業報告は事実を正しく記載することが大事である。細かいことだが、運営委員会の開催時間が記載されている時間より実際は短いケースがあった。また、記載されている議題は主要なものを選んで載せているようだが、各回の全ての議題を載せるか、あるいは「主な議題」としていくつかを載せるかにしなければ事実の記載とはならない。

委員長：これまでのご意見をまとめると、総論については全体の調整が必要であり、もう少し加筆してわかりやすく事務局で整理していただくこととする。

４.そ の 他

１．　次回運営委員会日程について

■　日時：５月１５日（火）１９時～２１時

■　会場：イングビル３階　第２会議室

以上をもって散会した。